

さんむ景観通信

第15号

令和2年3月発行

さんむ景観通信では、市民の皆様に『景観』を知っていただき、『景観』への意識をより高めていただくため、景観に関する様々な取り組みやイベントについて発信しています。第15号では第15回景観ワイワイ広場の開催内容を報告します。



第15回景観ワイワイ広場「身近な景観資源サンプスギについて学ぼう」

身近な景観資源であるサンプスギ。令和元年台風15号の被害でその多くが倒木の被害に遭いました。今回のワイワイ広場では、美しいサンプスギの自然景観を守り、次世代へ継承していくために、サンプスギについての基礎知識やその活用方法等を学び、身近な景観資源に目を向け、関心を持ってもらうことを目的として開催しました。

- 日時 令和2年2月23日（日）
午前9時～正午
- 場所 さんぶの森交流センターあららぎ館
- 内容 講演、実地見学、アンケート
- 講師 千葉県森林研究所 福島 成樹 様
- 参加者 21名（市内21名）



当日の開催の様子をご紹介します！



【講演】 演題：『山武林業とサンプスギ』
講師：千葉県農林総合研究センター森林研究所 主任上席研究員 福島 成樹 様



講師の福島様から「山武杉」と「サンプスギ」の違いやその成り立ち、特性等のほか、山武杉を守っていくための取組み等についてご講演いただきました。質問も出て参加者の興味の高さがうかがえました。

【実地見学】千葉県農林総合研究センター森林研究所内（住所：山武市埴谷 1887-1、面積：11.0ha）
【森林研究所とは】森林・林業に関する試験研究を実施している千葉県の出先機関です。森林・林業をとりまく新たな社会情勢をふまえ、千葉県農林水産業振興計画の定める基本方向に基づき試験研究を行っています。



森林研究所内でも台風15号で杉が倒れる被害を受けました。講演に引き続き、福島様に森林研究所内を案内いただきながら、実際の杉の生育過程や種類の違いについて説明を受けました。

『山武杉』と『サンブスギ』の違いって何？

山武市内の杉について、よく「山武杉」と「サンブスギ」というように漢字とカタカナで表記されることがあります。同じ杉なのになぜ呼び方が違うのか気になりませんか？

一般的に山武地域にある様々な杉を総称して「山武杉」と呼んでいます。そのなかでも山武地方で古くから育てられてきた挿し木スギの一品種（クローン）を「サンブスギ」と呼んでいます。

「サンブスギ」は、千葉県で生まれた優良な性質を多く持つ挿し木スギで、250年以上前から山武林業地において挿し木造林の技術とともに受け継がれてきました。性質の特徴としては、幹が通直（まっすぐ）、完満（太さが一定）で、木肌のつやが良く、赤みが強くて美しいなどです。そのため、古くから高級木材として市場に流通していました。また、近年では「花粉の少ないスギ優良品種」の一つとしても選抜されています。

一方で、「サンブスギ」は、「非赤枯性溝腐病」という病気にかかりやすいという弱点もあります。「非赤枯性溝腐病」は、幹を腐朽させ、林価を著しく低下させるため、山武地域における林業上の大きな問題となっています。

前述したように、「サンブスギ」は挿し木スギの一品種であるため、良い性質も弱点もすべてが同じく受け継がれていきます。現在、病気に強い「サンブスギ」の創生に向けて研究が進められていますが、地域の宝である山武杉を守っていくためには、杉を育てていくと同時に、杉を利用していくことが大切になります。杉林の管理には多くの費用が掛かり、杉の利用が進まなければ所有者も杉林の管理が困難となります。再生可能な木質資源を有効に活用し、循環型の社会を目指すことが山武市の緑豊かな自然景観を守っていく一つの方策となります。

～市内木材の利用促進に向け山武市の取組み～

市内産木材利用促進事業補助金

市内産木材の利用促進を図るため、市内で産出された木材を一定割合以上使用し、かつ市内の工務店の施工による戸建木造住宅を新築・増築・購入された方へ、経費の一部を補助しています。

※詳しくは市ホームページをご覧ください。<https://www.city.sammu.lg.jp/page/page001876.html>

山武市木質バイオマス燃料利活用補助金

木質バイオマス燃料の利用を促進し、森林資源の循環を図るため、木質ペレット、薪等を燃料として使用するストーブ又はボイラーを購入・設置する費用の一部を補助しています。

※詳しくは市ホームページをご覧ください。<https://www.city.sammu.lg.jp/page/page001016.html>

「景観づくりの視点」

身近に景観を感じる

- ・徒歩や自転車で市内を散策する
- ・高台や平野部からの眺めを楽しむ

など



自ら体験・実践する

- ・庭先の美化など、手入れをする。
- ・興味のある活動に参加する。

など



景観の状況を知る

- ・市内の景観資源を見て回る。
- ・良い景観、改善すべき景観を考える

など



取り組みの輪を広げる

- ・近所の人に声をかける
- ・より多くの活動やイベントに参加する

など



さんむ景観通信 第15号 (令和2年3月発行)

発行者 山武市 都市建設部 都市整備課 (〒289-1392 山武市殿台 296 番地)

電話 0475-80-1191 / E-mail toshisebi@city.sammu.lg.jp / ホームページ <http://www.city.sammu.lg.jp/>

